

県野菜 都内直売新ルート

農家が売値設定、手取り増

とれたての県産野菜が都内のスーパーで直売される仕組みが好評だ。「道の駅」つのみや、ろまんちっく村」などを運営する地域商社、ファーマーズ・フォレスト(宇都宮市)などが始めた。通常の流通ルートより早く届けられ、新鮮なことに加え、生産者の顔が見える安心感が東京の消費者に受けている。農家にとっては、高値で売れるメリットもあるという。

農産物の直売所は、消費者から人気が高いが、販売する野菜の種類が限られていたり、客が少なかったりして、売り切れないことも多い。

ファーマーズは、大都市圏のスーパー内に農産物直

売所を展開している和歌山市の商社、農業総合研究所(農総研)と連携。同社の取引先のスーパーにある直売所で県内農家の野菜を扱ってもらったことにした。

宇都宮市とその近郊の農家は収穫した野菜をファーマーズの敷地内にある集荷場に持ち込み、小分けされて仲卸業者の共栄青果(同市)がスーパーへ配送する。

トマトの場合、通常の流通ルートでは、収穫から店頭まで数日かかるため、農家は実が青いうちに収穫する。しかも、他の生産者のトマトと混ざってパック詰めされるため、販売の際は「栃木県産」と表示される。

これに対し、「直売方式」では、夕方までに集荷場に集められた野菜は翌朝には都内のスーパーに並ぶ。生産者名や生産地の市町も表示される。5月から試験販売を始めたところ、売り切

れが続く、現在は約40の農家が参加し、約30店舗で販売されている。

宇都宮市板戸町のトマト農家斎藤隆久さん(41)は「市場に出すより単価が高くなるかに高い。東京へ直売する比率を上げるため、ニーズに合った小さめで食べられるトマトの栽培を増やしたい」と話す。

1000円程度で出荷しているトマトが、直売方式では500グラム300円程度で販売できるという。農家はファーマーズに手数料を払うが、それを差し引いても手取りは多いという。

ファーマーズの松本謙社長は、100店舗への出荷を目指し、今後、集荷場を県北や県南にも設ける予定で、「都内で県産農産物の魅力を伝える機会にもなる」と話している。



都内のスーパー内で直売されている農産物(ファーマーズ・フォレスト提供)

野菜直売方式のイメージ

※価格は例

